

公開講演会のお知らせ

森林総合研究所は10月15日（水）午後、茨城県つくば市のノバホールで「2050年の森…人口減少社会において森林の果たす役割とは」と題した公開講演会を開きます。参加無料、事前申込制。林野庁後援。

本研究所は、森林の多面的機能を十分に発揮し、社会の要請に応えるための研究開発の方向性と達成目標を示したロードマップを作成し、「2050年の日本の森のあるべき姿」を描いて、「2050年の森」として2008年に公表しました。しかし、2050年がせまってきた今、森林を取り巻く情勢は急速に変わりつつあります。人口減少が続く日本における2050年の森林の姿とは？ 求められる森林の機能とは？ 我々が目指す研究とは？などを再び検討し、紹介します。

参加申込み方法や最新情報は下記案内ページでご確認ください。



日時

2025年10月15日（水）午後1時半～4時半（午後1時から受付）

会場

ノバホール（茨城県つくば市吾妻1丁目10-1）TXつくば駅から徒歩5分

演題と講師

「2050年の社会・環境」

石塚成宏（研究リスク管理監）

「気候変動と生物多様性」

大橋 春香（野生動物研究領域 主任研

究員）

「森林と林業」

田中 真哉（森林管理研究領域 主任研究員）

「木材産業と木材利用」

松村 ゆかり（木材加工・特性研究領域 木材機械加工研究室長）

「林木育種」

岩泉 正和（林木育種センター関西育種場育種課育種研究室長）

坪村 美代子（林木育種センター育種部育種第一課育種研究室長）

ポスター発表

「森林産業実用化カタログ2025」より主要成果を発表

多摩森林科学園の企画展

「クマ」——かわいい？ こわい？

「知る」という選択

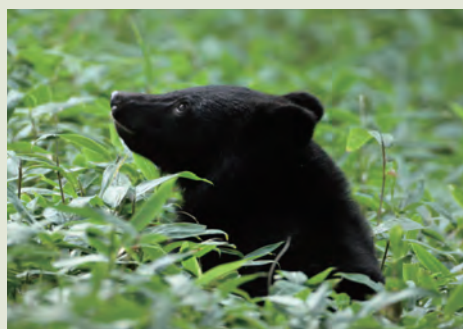
「クマ」と聞くと、どこか愛らしく

親しみやすいイメージを思い浮かべる

かもしれません。ぬいぐるみや絵

本、アニメに登場するクマたちは

優しくて、人間のような温かみを



ツキノワグマ（佐藤嘉宏さん提供）

持った存在として描かれています。

しかしその一方で、現実のクマは野生に生きる動物として圧倒的な力を持ち、ときに人間社会に恐怖をもたらす存在として報道されることもあります。私たちは、こうした野生動物とどう向き合い、どう距離を取るべきか、慎重に考える必要があります。

多摩森林科学園ではそんなクマの姿に焦点を当て、クマの生

ダイバーシティ推進の取り組み



ダイバーシティ推進の取り組み

森林研究・整備機構では、多様な人材がそれぞれの能力を存分に発揮できる多様な働き方が可能な職場環境を実現するため、職員の意識啓発や制度の充実などに取り組んでいます。機構としてのダイバーシティ推進は、2007（平成19）年に男女共同参画の取り組みとして始まりました。その後、関連する法整備などが進む中で、2016（平成28）年には理事長直轄のダイバーシティ推進本部が新設され、機構全体の推進策の意思決定をダイバーシティ推進委員会において行う仕組みとなっています。森林総合研究所に設置されたダイバーシティ推進室は室長1名、室員7名（いずれも兼任）、非常勤職員2名で構成され、林木育種センターや森林整備センター、森林保険センターの事務局と連携して、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。

機構全体の取り組みとしては、年数回のセミナーやキャリア・カウンセリング、男女共同参画週間の企画展示を実施しているほか、育児や介護にかか

る制度の変更があった場合は、総務部

態や山での暮らしについて紹介する企画展を開催しています。この企画展を通じて、クマを「かわいい」「かわい」かという単純なイメージだけでなく、その背景にある多様な側面を知り、森の隣人としてのクマと、これからどう共存していくかを考えるきっかけとなれば幸いです。

詳細につきましては、多摩森林科学園のホームページをご覧ください。

門と協力しながら、職員に向けた『育児と介護のガイドブック』『両立支援ガイドブック』を改訂して、職員に必要な情報を迅速にわかりやすく提供しています。近年は不妊治療にかかるセミナーの実施などを通じて、上司や周囲の職員にも理解が広がるよう働きかけを行っており、こうした取り組みが評価され厚生労働省から「くるみんプラス」認定を取得することができました。

このほか、森林総研ではつくばと関西支所の敷地内に保育施設を設けており、前日の所定時刻までに利用申請することで、職員が出動してから子供をプロの保育士に預けることができるほか、保育施設がない林木育種センターや支所、育種場では外部の民間保育施設の利用に対して支援する仕組みを整備しています。



ダイバーシティ推進室ホームページでは、森林研究・整備機構のダイバーシティ推進に係る取り組み内容や報告などを掲載していますので、ぜひご覧ください。

（ダイバーシティ推進室長 星野大介）

次号予告

今年12月発行予定の次号71号では「風と森林——樹木による風力のいなし方」(仮)と題し、風洞実験による樹形変形や、樹木に働く風力の測り方などを特集する予定です。巻頭座談では、高級材「山武杉」の産地として知られる千葉県山武地区で、林業に携わる女性たちが立ち上げた「さんぶ木楽会」の皆さんと弊所研究員が語り合います。

持続可能な開発目標 (SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

4 質の高い教育をみんなに P.19	5 ジェンダー平等を実現しよう P.19	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに P.18	8 働きがいも経済成長も P.3
9 産業と技術革新の基盤をつくろう P.3	13 気候変動に具体的な対策を P.3,8,10,12,18,20	15 陸の豊かさも守ろう P.3,8,10,12,18,19,20	